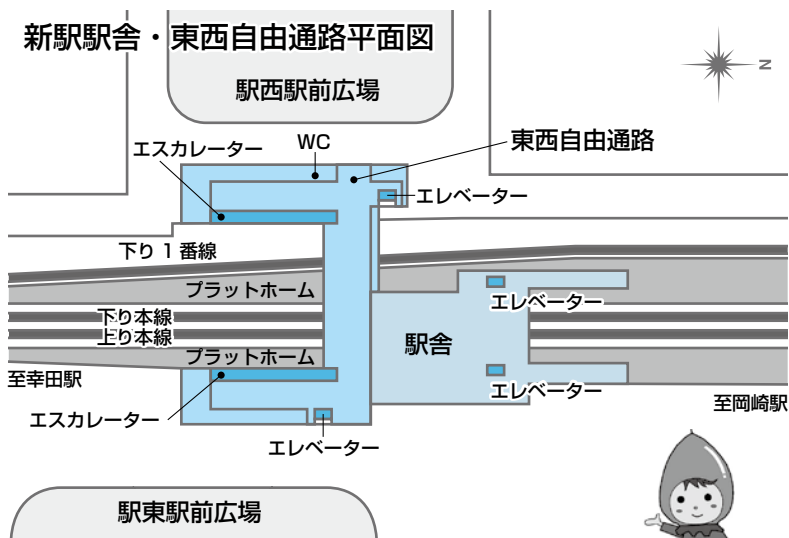


# 駅

# を中心としたまちづくり

環境にやさしい都市交通の整備と  
まちづくりをむけて



▲新駅（西側）工事風景

幸田町では、町の将来都市像として総合計画に位置付けられている「3駅プラス1」構想の実現を目指し、まちづくりを進めています。この「3駅プラス1」構想は幸田駅、三ヶ根駅、新駅周辺市街地とハッピーネス・ヒル・幸田周辺の交流拠点を加えた4極を都市核としてコンパクトでまとまりのあるまちづくりを推進するものです。

新駅の整備により4つ目の都市核が完成するとともに、3つの鉄道駅により町内市街地のほとんどが駅勢圏でカバーでき公共交通を軸とした交通体系の骨格が完成します。

新駅整備効果をより高め、町全体がより良い交通体系となるため町が目指す将来構想として「**幸田町都市交通マスタープラン**」を、また構想を実現させるための整備プログラムとして「**幸田町総合交通戦略**」を策定し、より戦略的で効率的な整備を目指していきます。

また併せて新駅周辺地区のまちづくりの方向性を示す計画として「**相見エコマちづくり計画**」を策定し、住民や企業、行政が一体となり環境にやさしいまちづくりを進めていきます。

特集では、これらの計画についても紹介します。

## 新駅駅舎・東西自由通路の概要

新駅駅舎と自由通路は採光に配慮しガラス面を多く取った箱型で、自由通路からは周辺風景や山並みを展望できます。

また、環境に対する効果の高い部分では、省エネと環境に配慮した整備を行うとともに、自由通路にはエレベーターに加えエスカレーターを設置し、東西の新市街地間がスムーズに移動できるよう配慮します。

**新駅は平成23年度末の開業を目指し整備を進め、多くの人に長く愛される駅を目指します。**

## 新駅駅舎

駅は線路の上に改札口のある橋上駅で、自由通路により東西駅前広場につながります。

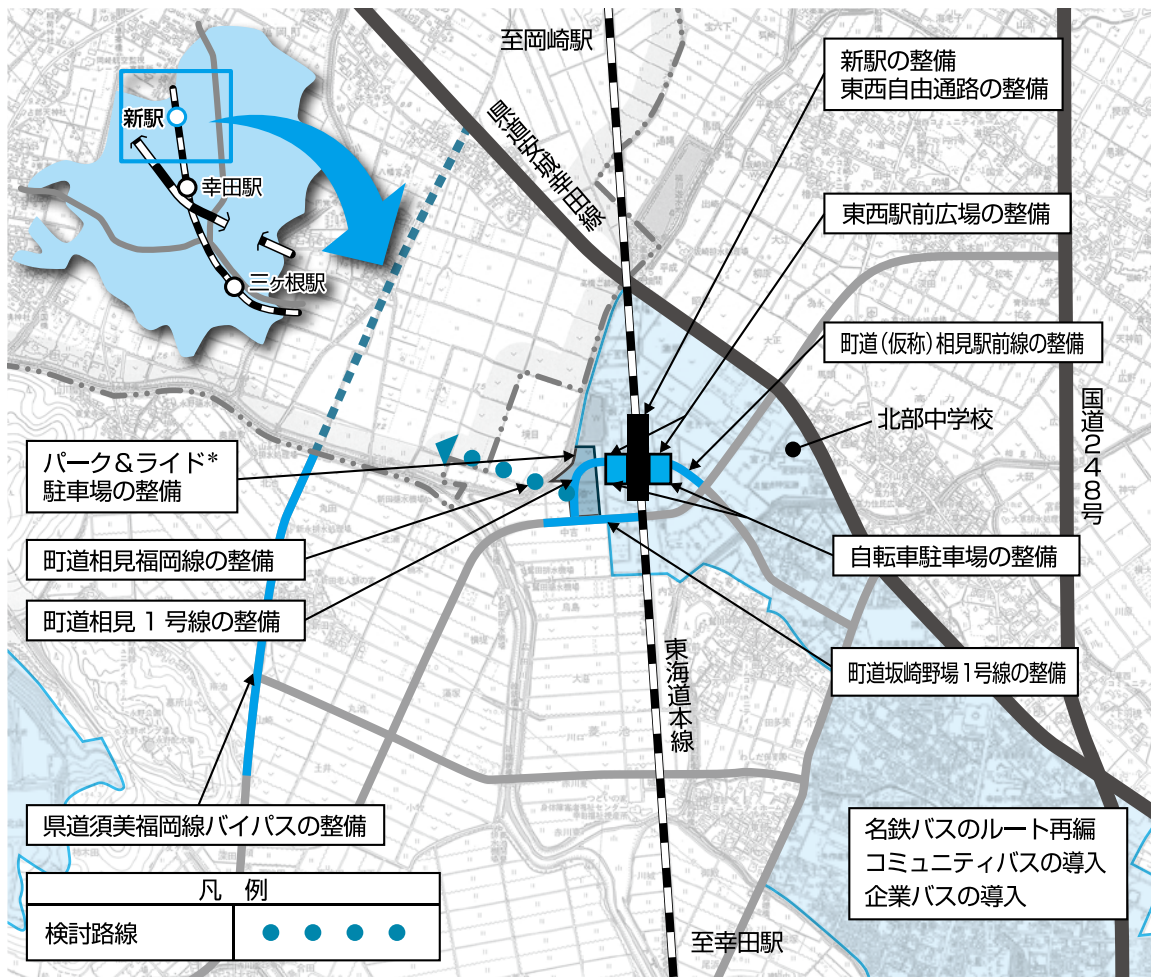
プラットホームは、下り線に待避線を設定した島式と上り線に相対式を設けた2面3線の構造とします。

改札は自由通路から入り、プラットホームへは階段またはエレベーターで降ります。

## 東西自由通路

東西自由通路は駅舎と一体のもので、駅への出入り口とともに、鉄道により分断される東西間の通行を確保するため、町管理の通路として24時間通行可能な施設となります。

幅員は十分な移動が確保できるよう、上



部通路部分で4.5mです。

上下移動に対して、バリアフリーに配慮し階段のほかエレベーターおよびエス

エレベーターを設置し、移動の快適性を確保します。

問合せ 企画政策課政策G (内線342)

## ▲新駅関連の整備計画

\*パーク&ライド：最寄りの駅などまで自動車を使い、駅などに近接した駐車場に駐車（パーク）し、鉄道などの公共交通機関に乗り換えて（ライド）、目的地まで行く方法。新駅西側では約500台分のパーク&ライド駐車場整備を予定しています。



# 人・まち・地球を大切に

## 都市交通の実現へ

### 幸田町都市交通マスタープラン

### 幸田町総合交通戦略の策定



▲幸田駅の整備イメージ  
(幸田町都市交通マスタープランより)

幸田町は、中央を南北に走る東海道本線の開通以来、名古屋や豊橋方面への交通の優位性により発展してきたまちです。

また近年、町を取り巻く交通体系は大きく変わりつつあり、道路では名古屋道路や新東名高速道路の整備が、鉄道では町内3つ目となる新駅が設置されることで、更に広域交通網の整備が図られます。

しかし市街地内の道路については、依然として町内の地域を結ぶ幹線道路の整備の遅れや、歩道・自転車道の整備が不足しており安全・安心なまちづくりの整備促進が課題として挙げられます。

本町は、JR東海道本線の3駅（新駅含む）を有することとなり、ほかの地域に比

べ基幹公共交通のサービス水準は非常に高いものの、住民の移動の約7割は自動車利用であり、特に近隣都市への移動では自動車利用が9割を超えている状況です。

このような過度なマイカー利用依存型の都市構造を放置すると、マイカーを利用できない住民の移動制約や、特に高齢化社会を迎え自動車を運転できない高齢者の外出機会が減少し、生活の豊かさが失われることが懸念されます。

また、自動車排気ガスにより地球環境へも多大な負荷を与えることとなります。

そこで、本町では新駅の設置を契機に過度にマイカーに依存した交通体系を見直し、地球環境にやさしい鉄道を軸としてバ

スなどの公共交通や徒歩・自転車への利用転換を図り、住民の多様な移動手段が確保された、安全で安心して利用することができると交通体系を実現するため、今後の都市交通のあり方を総合的に検討することとしました。

このため町では、この都市交通の将来構想として「**幸田町都市交通マスタープラン**」を策定するとともに、この構想の確実な実現を目指し、町民・交通事業者・町内企業・行政など関係者が一体となり総合的かつ戦略的に取り組む「**幸田町総合交通戦略**」を策定しました。



▲南部の拠点となる三ヶ根駅

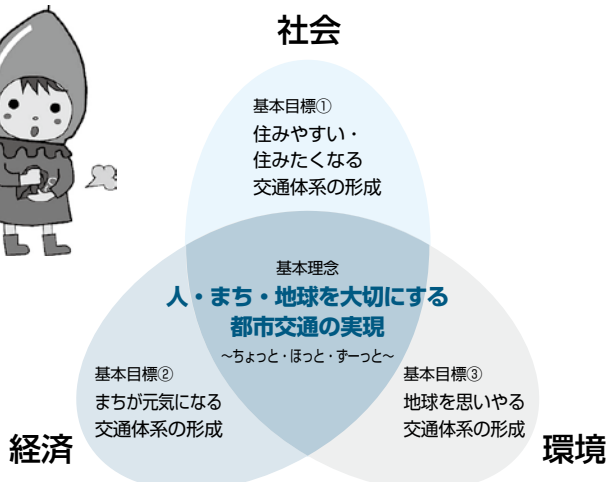


図 都市交通マスタープランの基本理念と基本目標

## 幸田町都市交通マスタープラン

マスタープランでは、幸田町を取り巻く交通体系の変化、社会経済情勢の変化に対応し、住民の都市交通に対するニーズを踏まえ、第5次総合計画、都市計画マスタープランに示される将来都市像を実現するための望ましい交通施策と交通行動のあり方を示しました。

### ① 目標年次

おおむね20年後の平成42年（10年後の平成32年頃に中間見直し）を計画の目標年次としています。

### ② 基本理念と基本目標

**③ 都市交通施策**  
マスタープランでは、基本目標などを踏まえ、目標の達成のため次の都市交通施策を策定しました。

- ・ **自動車交通施策**
  - ① 都市間連絡道路の整備
  - ② 地域内幹線道路の整備
  - ③ パーク＆ライド駐車場整備
  - ④ エコ通勤の普及促進 ほか
- ・ **公共交通施策**
  - ① 鉄道駅の整備
  - ② バスネットワークの構築
  - ③ 乗り換え利便性の向上
- ・ **歩行者・自転車施策**
  - ① 歩道・自転車道ネットワークの整備
  - ② 歩行者優先空間の創出 ほか
- ・ **共通施策**
  - ① モビリティマネジメント※の導入
  - ② 交通規制・ルールの徹底 ほか

## 幸田町総合交通戦略

交通戦略では、短期間で重点的に実施するための戦略目標を設定し、おおむね5年から10年で評価改善、見直しを行いながら20年後の都市交通体系の実現を図ります。

### ① 目標年次

今回策定した戦略は、平成26（31）年度を

目標年次とした短期（中期）事業プログラムとなります。

### ② 戦略目標と施策

戦略では町を取り巻く緊急の課題から、2つの「戦略目標」を定めました。また、複数の施策を目的に合わせ効率よく実施することで短期（中期）での戦略目標の達成を目指します。

**戦略目標Ⅰ**  
「**鉄道を軸としたコンパクトなまちづくり**」

- 新駅および周辺施設の整備
- 新駅周辺の道路整備
- 鉄道に連絡するバス交通の整備
- 既存駅および周辺施設の改修
- 既存駅周辺の道路整備
- 自転車利用の促進
- エコ通勤

（モビリティマネジメント※）の実施

**戦略目標Ⅱ**  
「**移動しやすい安全・安心なまちづくり**」

- 主要施設周辺の歩行空間の整備
- 自転車走行空間の整備
- 幹線道路の整備
- 徒歩や自転車を補完する移動手段の確保
- 「ミニミニバスの導入」
- 交通意識の変革

### 戦略！

問合せ 企画政策課政策G（内線342）

\*詳細は町ホームページをご覧ください。

### ※モビリティマネジメント

渋滞や環境、あるいは個人の健康などの問題に配慮して、過度に自動車に頼る状態から公共交通や自転車などを「かこく」使う方向へと自発的に転換することを促す、一般の人々やさまざまな組織・地域を対象としたコミュニケーションを中心とした持続的な一連の取り組みのこと。

# 環境にやさしく

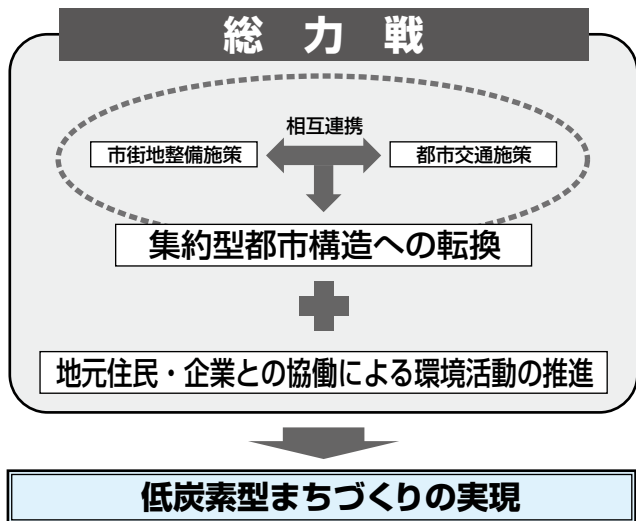
# 住みよいくまことに

## 相見エコマちづくり計画の策定

町の北側に位置する相見地区においては、町内3つ目となるJR新駅の開業が平成23年度末に予定されており、これにより町の交通体系に大きなインパクトを与え、公共交通の利用促進など低炭素型の都市構造実現に向けた大きな契機となります。

また、この新駅周辺においては土地区画整理事業による市街地整備や交通の優位性から人口増加を見込んでおり、その宅地需要に対応するために今後も市街地整備事業を進めていく予定としています。

このような背景から、本町では、都市政策の面から逼迫する地球環境問題に対応するため、「都市交通施策」と「市街地整備施策」の相互連携によってコンパクトな都市構造への転換を図るとともに、地元住民、企業とも協働した環境活動の推進による総力戦を展開し、将来に向けて環境面における持続可能なまちづくり（低炭素型まちづくり）を目指すこととしました。



▲環境に配慮したまちづくりを目指す相見地区

そこで、さまざまな事業を展開する周辺整備において、ここに集う多様な主体が環境に関する課題を共有し、協働して環境負荷削減対策を検討することを目的として「相見エコマちづくり計画」を策定いたしました。この計画において実施または検討される施策を今後のまちづくりにも積極的に展開し、地球環境に配慮した快適で住みよい都市づくりの実現を目指します。

### 『環境負荷削減対策』

- 1 環境にやさしい都市構造の実現**  
集約型都市構造の推進や拠点地区におけるコンパクトな都市構造の形成
- 2 環境にやさしい公共施設整備**  
環境にやさしい公園づくり ほか
- 3 地球を思いやる交通体系の形成**  
①新駅および周辺施設の整備  
②新駅周辺の道路整備  
③バス交通の整備 ほか
- 4 環境配慮型住宅の建設促進**
- 5 大規模商業施設における環境配慮**
- 6 地域における環境への取り組みの実施**  
①環境学習などの推進  
②地域住民による環境活動の促進  
③地元企業との連携による環境教育プロジェクトの展開
- 7 日常生活における環境への取り組みの推進**

\*詳細は町ホームページをご覧ください。



## 環境と都市交通のイメージ キャラクター名称募集

環境にやさしい生活や都市交通の啓発のためのキャラクターを作成しました。町民の皆さんに、より親しまれるものとするためキャラクター名称を募集します。

### 募集方法

官製はがきまたは町ホームページの申込みフォームにてお申し込みください。官製はがきの場合は、①キャラクター名称 ②応募者の住所、氏名、年齢、電話番号をご記入ください。

採用者には記念品を差し上げます。

### 応募期限

7月15日(木)まで

### 応募先および問合せ先

郵便番号444-0192(住所不要)  
幸田町役場 総務部企画政策課 政策G  
(内線342)「キャラクター係」へご応募ください。

私にすてきな  
名前をつけてね!



## 電動アシスト自転車モニター事業実施

私たち一人一人が  
できることに取り組んで  
地球にやさしい  
「愛のある幸せなまち幸田町」  
を未来に残したいね



町では環境にやさしい交通体系の実現に向け、鉄道の整備やバス交通の整備と併せ自転車の活用を検討しています。しかし幸田町は、田園地帯以外では坂道が意外と多く自転車を利用しづらい状況にあります。このため自動車利用者を対象に、電動アシスト自転車を活用したモニター事業を実施し、通勤や買い物などの日常移動での電動アシスト自転車の利便さを体験していただくことにより、環境にやさしい自転車(電動アシスト自転車)の利用促進を目指していきます。

事業期間は7月から翌年1月までを予定しています。

モニター事業の詳細は、町ホームページまたは広報狭み込みの募集チラシをご覧ください。ただくか、下記までお問い合わせください。

## 環境配慮型住宅のすすめ

幸田町では、区画整理も行われており、多くの住宅の建設が行われています。

建設時に環境配慮型の住宅とした場合、その後長期間にわたり環境負荷削減効果が継続するため、住宅建設時における環境配慮は大きな効果があります。このため町では環境配慮型住宅の推進のため、住宅建設を行う際に役立つ各種制度などをお知らせするパンフレット「環境配慮型住宅のすすめ」を作成しました。

パンフレットは役場や町民会館・図書館などで配布しています。また、町ホームページでもご覧いただけます。



### 問合せ

企画政策課政策G (内線342)